

熊本地震から10年 シンポジウム

参加費
無料

2016年4月14日と16日、私たちを震度7の大きな揺れが襲いました。あの時、言葉や文化の壁に直面しながら避難生活を送った外国人住民がいました。あれから10年。

本シンポジウムでは、まず当時の過酷な状況を経験した外国人住民や、最前線で支援に奔走した方々、そして自身も被災者として、また客観的な視点で被災地を見つめてきた新聞記者の方々をゲストに迎え、あの日について語っていただきます。

その後、日本各地の震災現場で外国人支援の最前線で活動されているダイバーシティ研究所代表理事で復興庁復興推進参与でもある田村太郎氏による基調講演、そして地域と外国人住民が共に支え合う共助について考えるパネルディスカッションの3部構成で開催します。

「もし明日、また大きな地震が起きたら？」隣にいる外国人住民と手を取り合える関係を、今ここから一緒に作り始めませんか。

2026年4月19日（日）午後2時～午後5時
会場：熊本市国際交流会館7階ホール

基調講演

【基調講演テーマ】

「大規模災害と外国人」～阪神淡路大震災から能登半島地震までを俯瞰して考える共助型災害対応～

【基調講演者】

ダイバーシティ研究所代表理事 田村太郎氏



～基調講演者略歴～

兵庫県伊丹市生まれ。

阪神・淡路大震災で被災した外国人への情報提供を機に、1995年「多文化共生センター」を設立。

自治体国際化協会参事等を経て、2007年にダイバーシティ研究所を設立。

代表理事として企業や自治体による「人の多様性配慮」の推進に携わる。

復興庁発足後は上席政策調査官、2014年より復興推進参与を兼務。

共著に『好きなまちで仕事を創る』『多文化共生キーワード事典』

『自治体施策とユニバーサルデザイン』『阪神大震災と外国人』などがある。

お問い合わせ・お申込み

(一財)熊本市国際交流振興事業団

☎ 096-359-2121

✉ pj-info@kumamoto-if.or.jp

ホームページからも
お申込みできます



熊本地震から10年 シンポジウムスケジュール

第一部
熊本地震を振り返る
～熊本地震時の体験～
午後2時～午後2時40分

【発表者】

- ①熊本日日新聞社
統合編集本部長 渡辺 直樹 氏
- ②特定非営利活動法人くまもと災害ボランティア
団体ネットワーク代表理事 樋口 務 氏
- ③KUMAMOTO KURASU 副会長
テブコタ・ハリ 氏
- ④一般財団法人熊本市国際交流振興事業団
常務理事 八木 浩光 氏

第二部 基調講演
午後2時時50分～午後4時

「阪神淡路大震災～能登半島地震」までの支援
経験から考える地域と外国人住民の共助とは？

【基調講演者】

ダイバーシティ研究所代表理事
田村 太郎 氏

第三部
パネルディスカッション
午後4時10分～午後5時

【パネルディスカッション テーマ】
～外国人住民を共助の担い手に～

【パネリスト】

- ①熊本日日新聞社
統合編集本部長 渡辺 直樹 氏
- ②特定非営利活動法人くまもと災害ボランティア
団体ネットワーク代表理事 樋口 務 氏
- ③KUMAMOTO KURASU 副会長
テブコタ・ハリ 氏
- ④一般財団法人熊本市国際交流振興事業団
常務理事 八木 浩光 氏

【コーディネーター】

ダイバーシティ研究所代表理事
田村 太郎 氏

登壇者紹介



渡辺 直樹 氏

熊本日日新聞社統合編集本部長
1990年、入社。記者時代は教育、熊本市政、
熊本県政、玉名地域、八代地域、紙面編集など
を担当。2016年の熊本地震時は情報プロジェク
ト担当。2017年5月、シリーズ「熊本地震あの
時何が」外国人被災者編（全9回）を連載。
デジタル編集本部長、編集本部部長を経て2024年
から現職。熊本市出身。



樋口 務 氏

特定非営利活動法人くまもと災害ボランティア
ネットワーク (KVOAD) 代表理事
熊本市市民活動支援センターの総括責任者を経
験し、2016年の熊本地震発災直後から、災害時に
おける行政・社協NPOの連携を推進する。同年10
月NPO法人「くまもと災害ボランティア団体ネッ
トワーク (KVOAD)」を設立し、現在に至る。



テブコタ・ハリ 氏

KUMAMOTO KURASU 副会長
ネパール出身。2007年国費留学生
として来日。2013年熊本大学大学
院薬学教育部博士後期課程修了。
同大学人文社会科学部助教。
熊本ネパール人協会顧問、
KUMAMOTO KURASU副会長を務
める。



八木 浩光 氏

(一財)熊本市国際交流振興事業団常務理事

現在、事業団で多文化共生・
地球市民育成分野の人材育成を
担当している。
2016年熊本地震時には、
多言語対応避難施設と災害多言語
支援センターを設置・運営した。

ホームページからも
お申込みできます

